

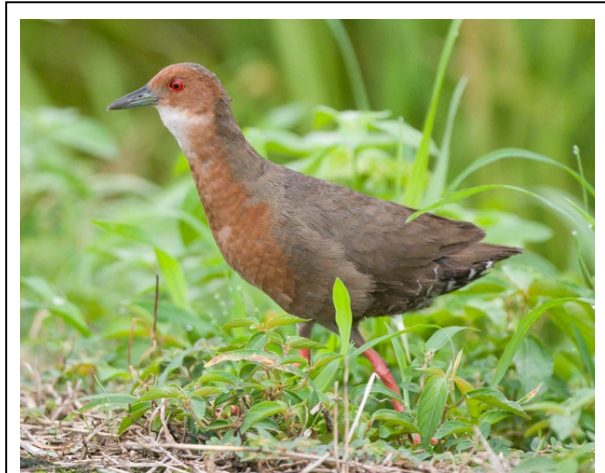
ヒクイナ *Porzana fusca* (Linnaeus)

## 【選定理由】

沿岸部から丘陵地、標高の高い山地の湿地にも生息するが、本来県内で最も数多く生息していたのは沿岸部や河川下流部の湿地である。荒地や干拓地に存在していたヨシ原などの湿地が減少し、同時に沿岸の浅い海に土砂を投入する埋立てが県内全域で行われた。この埋立地に一時的できた水たまりや湿地のヨシ原にも数多く生息していたが、近年こうした環境の大半が消失したことで、最も生息数の多かった沿岸部や河川下流部から本種が減少している。

## 【形態】

全長 21～23cm、翼開長 37cm。成鳥は、頭部から腹にかけて赤褐色、上面は一律な暗緑褐色で、下尾筒は黒色地に白色の横斑がある。嘴は黒く脚と目は赤色。幼鳥は、全体的に羽色が淡く、喉から腹にかけては白っぽい。



愛知県安城市, 2011年8月26日, 杉山時雄 撮影

## 【分布の概要】

## 【県内の分布】

夏期に平野部の水辺に生息し繁殖するが、丘陵地や山間部の湿地でも記録があり、近年は越冬期の記録も少なくない。

## 【国内の分布】

国内には2亜種が分布し、亜種ヒクイナ *P. f. erythrothorax* は、北海道、本州、四国、九州に主に夏期に生息し繁殖するが、一部は本州中部以南では越冬する。南西諸島には亜種リュウキュウヒクイナ *P. f. phaeopyga* が周年生息する。

## 【世界の分布】

インドから東南アジア、中国、朝鮮半島にかけて分布し4亜種に分けられる。北方のものは冬期に南下する。

## 【生息地の環境／生態的特性】

沿岸部から山地までの水田や水路、河川や池沼などで周囲にヨシ原のある湿地に生息する。繁殖期は4月から10月頃で、イネ科の株の中などに営巣する。水生昆虫や軟体動物、水生植物の若葉などを採食する。繁殖期にはキョツ、キョツ、キョツ、キョ、キョ、キョ、キョ…と次第にテンポが速くなる声で鳴く。夜明けや雨上がりに鳴くことが多いが、繁殖前期は昼夜を問わず鳴く。

## 【現在の生息状況／減少の要因】

沿岸部や河川下流部周辺での生息数は大きく減少しているが、都市化されていない内陸や丘陵地などの池沼には少数ながら生息している。また、本来生息していた場所が開発されて工業団地や住宅団地ができた場所では、そこに造られた遊水池や水路にヨシ原ができれば、こうした環境でも繁殖するが、本種の存在に配慮がされない場合はそのまま消失している。

## 【保全上の留意点】

干拓地や埋立地の遊休部分には、積極的に湿地の環境を再生するべきである。水田を含む淡水湿地を保全して、水辺の環境回復に努めることも重要である。開発された部分に作られた遊水池や水路の水辺環境は、その価値が理解されていなければ容易に消失する環境でもある。

## 【特記事項】

古典文学の中で「水鶏（くひな）たたく」というのは本種の声で、戸を叩く音として描かれている。遠い昔から、身近な夏の風物詩として親しまれていたことが分かる。

## 【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.106. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)